

Q. 「まちづくりってどんなイメージ？」

A. 「難しそう」「高齢の方がやるもの」「あまり考えたことがなかった」

これは「まちづくり」に触れる前の学生の答えです。

きっと、同じようなイメージを抱いている方もいるのではないのでしょうか。

「まちづくり」とは、誰もが快適に暮らせるようにするための活動のこと。

ごみの分別のルールを守ったり、地域の清掃をしたりすることも身近な「まちづくり」の一つです。

今回は、北星学園大学の学生たちが実際に地域に出向き「まちづくり」について考えました。

I. 住民との触れ合い — 2015.11.8もみじ台の地域の大広間 —

今回、学生たちが参加した「もみじ台の地域の大広間」は、もみじ台地区の住民の方々が運営し、子どもから高齢者まで約1,000人が参加するイベント。

子ども縁日や大道芸のパフォーマンス、児童会館や老人クラブの発表会など多彩なプログラムが催されています。

来場者に「まちづくり」という意識はないかもしれませんが、住民同士が触れ合うことで、地域での交流が生まれ、助け合いながら安心して暮らせる環境をつくる「まちづくり」につながります。

学生たちは、地域住民と触れ合ったことで、地域のイベントが住民のつながりを生むことを実感していました。

(学生の感想)

「住民同士の交流の場、情報共有の場になっていると体感」

「幅広い年齢層の人が楽しんでいた。こんなイベントが増えるといいな」

「地域住民の方々と一緒に楽しむことができた」



Ⅱ. 住みやすいまちを考える — 2016.1.8もみじ台まちづくりのアイデア交換会 —

学生たちは、高齢化が進むもみじ台地区の現状を踏まえて、高齢者が住みやすいまちをつくるアイデアを考え、もみじ台地区でまちづくり活動をしている住民の方19人と意見交換をしました。右記のアイデアを聞いた住民の方々は「車はどうやって確保する?」「サロンの開催場所に行くことが困難な人はどうする?」「プライバシーはどう守る?」という実際に運用する際の課題や『困っている』と声を上げることが難しい人もいたので、支援する側から声掛けをする仕組みも必要」など、日頃から活動しているからこそ分かる視点からコメント。

学生たちは、アイデアを実現する難しさを感じつつも、住民の方々の生の声を聞いたことで、新しい視点から「まちづくり」を考えることができました。

学生たちが考えたアイデア

- ・地域住民が運転する車に相乗りし、格安で病院やスーパーに送迎する外出支援
- ・出入り自由で気軽に参加ができ、送迎サービスが付いているサロン
- ・一人暮らしの不安が和らぐ高齢者、低家賃で住むことができる若者、双方にメリットがある多世代でのシェアハウス



①アイデアを発表 ②③④住民の方々と意見交換

Ⅲ. 「まちづくり」のイメージの変化

今回紹介したもみじ台地区での活動のほか、厚別西地区や厚別中央地区など厚別区内の各地域はもちろん、札幌市外にも出向いていろいろな「まちづくり」に触れた学生たち。そんな学生たちに再び聞きました。

Q. 「まちづくりに触れて感じたことは？」

A. 「楽しんで参加できる」
「参加者の年齢層の幅が広い」
「若者が積極的に関わることも大切」

実際に「まちづくり」に触れたことで、学生たちの考えはガラリと変わりました。札幌市は自治基本条例で「まちづくり」の主役は市民であることを基本理念としています。

なぜなら、そのまちのことを一番よく知っている市民が主役になることでよりよい「まちづくり」ができるからです。

今まで「まちづくり」を考えたことがないという方も、地域のイベントへの参加をはじめ、少しでも「まちづくり」に触れるとイメージが変わるのではないのでしょうか。

皆さんも「まちづくり」に参加してみませんか？

この特集に関するお問い合わせ 総務企画課広聴係 ☎895-2428